

経営理念	教育目標 すこやか やすっこ げんきなこ 経営目標 『幼児の育ちを大切にし、豊かな体験を通して生きる力の基礎を培う幼稚園』をめざす 〈子ども像〉○友達と仲良く遊べる子ども ○たくましいからだの子ども ○きまりや約束の守れる子ども ○思いやりのある子ども ○よく考え工夫する子ども 〈幼稚園像〉○子どもがいきいきのびのび楽しく生活する幼稚園 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ幼稚園 ○友達同士つながり自主性や社会性を身につける幼稚園 ○豊かな心情や創造性が身につく幼稚園 ○保護者や地域から信頼される幼稚園 〈教師像〉○幼児の心に寄り添い、共に行動できる教師 ○楽しい教育活動を工夫する教師 ○幼児の意欲、可能性を引き出す教師 ○互いに協力してチャレンジする教師 ○豊かな人間性と指導力の向上に努める教師
------	--

中期経営目標	短期経営目標 (評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等
		達成状況	評価	考察	評価	
適正な幼稚園運営	① 様々な避難訓練を実施し、職員の実践力の向上を図る。	地震・津波の訓練は繰り返し行うことで、職員一人一人が役割を意識して行動し、危機感をもって取り組むことで、それぞれの職員の動きや子どもへの対応が臨機応変にできた。火災や不審者訓練になると回数が少なく、園全体を意識し、臨機応変に対応することができなかった。	B	一番の課題解決である地震・津波への危機感を職員全員がもって訓練を行い、臨機応変に対応できたことは評価できる。様々な想定での取組を継続していただきたい。	B	日中や預かり保育時間での訓練を行ってきたが、さらに登園時等いろいろな時間帯を想定した訓練を行っていく。自主防災組織と連携をした訓練を計画しさらなる充実を図る。
	② 保幼小中一貫教育の充実に向け、子どもの育ちをつなげる取り組みを充実させる。	教師が互いに交流の大切さを思い、タイミングを見計らい交流をもつことができた。保幼・幼小の交流は、事前事後の話し合いをし、交流活動をすることで、改めて子どもの良さに気づく機会となった。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、子どもの成長・発達を考えているが、関連づけて説明をすることは課題が残った。	B	交流をタイミングよく取組んだことは、その重要性をもっていなければならないことだと思う。可能な範囲での取組を行っていただきたい。	B	交流や職場体験等の事後の話し合いで、どのような学びや育ちが見られたのかを「幼児期に育ってほしい姿」に関連づけて話ができるように取組んでいく。
充実した教育課程	① 日々の保育を振り返り、記録をもとに評価・反省を行い、よりよい保育を実践する。	振り返りの記録を基に、クラスの職員同士で環境や援助について気づき合ったことを話す機会を多く持つようにした。話し合うことで、共通した保育を実践できるようになっている。クラスの職員内で共有はできたが、全職員で共有することは不十分なところがあった。	B	クラスの職員同士が共有できたことが、環境や支援につながり成果になったと考えられる。P D C A サイクルの定着へつなげて欲しい。	B	子どもの実態に即した指導計画を作成し、P D C A サイクルを実施し保育の充実をめぐる。保育での振り返りが、職員間で共有できるように時間の確保に努める。
	② 幼児自らが関わり、夢中になって遊びたくなるような環境を工夫する。	子どもからの発想やつぶやきをヒントに環境を工夫したことで、主体的に友達と一緒に遊びを進めていこうとする姿につながった。教材研究を行い、教師自らがいろいろな素材や用具を試してみることができた。今の子どもの育ちに合っているか考えることができた。室内環境については、子どもの興味や関心に応じて整えることができていたが、園庭の環境になると不十分であった。	B	子どもの発想やつぶやきをヒントに環境を工夫できたことは理想的な実践だと思う。	A	子どもの遊びの姿から、日々の環境を整え保育の充実を図る。園庭の環境についても職員で話し合いを行い、異年齢で遊ぶことができる環境を整えていく。様々な素材の特性に気づく経験ができるように教材研究を計画的に行う。
	③ 一人一人の幼児を理解し、心に寄り添った教育活動を展開する。	職員会で個別の支援計画について話をする中で、具体的な支援方法や環境について全職員が共有できた。支援児に限らず、気になる子どもの話を終礼時にする機会も増え、子どもや保護者に対しての関わりについても、その都度一緒に考えることができた。	B	一人一人の幼児理解に努め、全職員が支援方法や環境について共有し、園全体で取り組み特に、子どもだけでなく保護者への関わりも共に考えていることは、評価に値する。	B	一人一人の課題に向き合い支援方法を考え、実践できるように努める。専門機関との連携や研修で得た情報を共有し、保育に活かしていく。
信頼される幼稚園	① 保護者との信頼関係をもとに、地域や関係機関と連携し、子育てに関する相談・支援を行う。	「保護者に対して積極的に関わり、日々の子どもの様子を伝えることで、子どもの成長をわかりやすく伝えている」と答えた保護者は94.2%。関係機関と連携し、子どもや保護者の様子を共有できた。保護者が子育てが楽しいと思えるような支援は十分できなかった。行事のことが主になったり便りを出すタイミングが遅くなったりしたことは課題である。	B	保護者アンケートで肯定的評価が94.2%アンケート記述から、保護者が信頼を寄せていることがよくわかる。さらに子育ての喜びが言い合える場の設定があればよいのではないかと。	B	行事の内容が主にならないように、日々の保育の様子や子どもたちの成長がわかるように定期的にクラスだよりを発行していく。保護者同士がつながるような行事や学級懇談等を工夫し取組んでいく。
	② 保護者と連携し、感染予防と衛生管理に努める。	感染予防や衛生管理に関して職員間で相談、共有し子どもが意識してできるように表示したり、密にならないように臨機応変に環境を変えたりして、感染防止や衛生管理に取り組むことができた。保護者のなかには、感染症に対する意識の違いがあったが、子どもたちの意識を高めることで、保護者の意識も高まっている。園での取り組みや感染情報について保護者に情報提供をすることが十分でなかった。	B	感染対策も職員間で共有し、園全体の意識向上に取り組んでいると思う。	B	園での取組や感染情報を保護者に手紙で知らせたり玄関に表示したりして子どもや保護者の意識をさらに高め自ら進んでできるようにしていく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要